

令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					6405	農業委員活動推進事業				農業委員会	農業委員会事務局
1 事業概要		中事業番号		713								所属コード	641000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）	
大綱（取組）	I 「産業・仕事の未来」	2.4	○							○	国の農業施策等に対する学習会・勉強会の開催	農業委員・農地利用最適化推進委員の資質向上を図り、農業者へ適切な情報提供・指導等の委員会活動が実施できるよう、その基盤となる知識を習得する勉強会を開催する。	
施策	3 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち												

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
農業従事者の高齢化、後継者不足、遊休農地の増大などが深刻化しており、国（農水省）においては、「攻めの農林水産業」の推進、T P P への参加など、農業の構造改革が推進され、大きな転換期を迎えている。	農業従事者の減少や高齢化などにより労働力が不足しており、その結果、遊休農地の増加や農業水利施設の保全管理に支障が生じるおそれがある。さらに、農作物への鳥獣被害も増加しており、農業を取り巻く環境は厳しい状況である。 また、自然災害の頻発や世界的に人口が増加するなど、特に、輸入依存度が高い日本においては、国際的な供給網の混乱や価格変動が直接的なリスクとなる。また、国内市場の縮小や需要の減少も懸念されており、これらは農業生産者にとって大きな課題である。	農業従事者の高齢化、後継者不足等による担い手の減少、生産資材の高騰に加え、自然災害や気候変動も農業生産現場へ影響を及ぼし、今後の農業を取り巻く環境は依然として厳しいものと予測される。 「農地利用の最適化」を図るためには、農業のD X 化や農業委員会活動の見える化を進めることが重要であり、中でも「担い手への農地集積・集約化」、「遊休農地の発生防止・解消」、「新規参入の促進」、「地域計画策定」に関する情報提供がますます重要性が増していくと思われる。	「物の豊かさ」よりも「心の豊かさ」を重視する意向の高まりから、農村が有する豊かな自然、美しい景観など農業・農村への関心が高まっており、将来にわたる持続発展可能な農業生産活動を推進するため、各種農業施策や補助事業など幅広い情報提供が求められており、農地関連手続きや農業委員会業務についての情報を提供する必要がある。

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画		
対象指標	郡山市農業委員・農地利用最適化推進委員	人		41		41		41								
活動指標①	学習会・勉強会等の開催回数	回	2	2	2	2	2	2	2		2		2			
活動指標②																
活動指標③																
成果指標①	勉強会・学習会等への参加者数	人	160	132	160	197	160	201	160		160		160		160	160
成果指標②	勉強会等への農業委員・推進委員の参加率	%	100	82	100	83	100	100	100		100		100		100	100
成果指標③	講演の満足度（講演内容が良かった以上のアンケート率）	%				97		98	90		90		90		90	90
単位コスト（総コストから算出）	勉強会参加者1人あたりのコスト	千円		22		14		15		19		19		19		
単位コスト（所要一般財源から算出）	勉強会参加者1人あたりのコスト	千円		22		14		15		19		19		19		
事業費		千円		21		35		19		76		76		76		
人件費		千円		2,885		2,643		2,944		2,885		2,885		2,885		
歳出計（総事業費）		千円		2,906		2,678		2,963		2,961		2,961		2,961	0	
国・県支出金		千円														
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		2,906		2,678		2,963		2,961		2,961		2,961	0	
歳入計		千円		2,906		2,678		2,963		2,961		2,961		2,961	0	
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続		継続						

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
【勉強会の開催 11月・2月】 1回目の勉強会では、郡山農業青年会議所（事務局は農業委員会事務局）との合同で「ふくしまのお酒について」をテーマに、福島県酒造組合特別顧問 鈴木賢二氏を講師に招き開催した。2回目の勉強会では、「私の農業経営の変遷とこれから～法人化による稲・大豆の大規模経営～」をテーマに、(有)アグリサービスあさか野 代表取締役 鈴木 一弘氏を招き開催した。本市と広域圏の農業委員・農地利用最適化推進委員のほか、市議会議員、関係機関職員、農業関係者、一般市民を対象に実施した。福島県のお酒や米との関わり、大規模経営について理解を深めることができた。また、この勉強会はYouTubeでも配信した。	令和6年度の勉強会は、2回の勉強会で201人の参加者であった。うち農業委員・農地利用最適化推進委員延べ82人（100％）が出席した。アンケートの結果も「良かった」以上が98％であった。	【事業費】2回の勉強会ともに、講師が県内の有識者だったため交通費が減少したので全体の事業費も減少した。  【人件費】昨年度とほぼ横ばいである。

### 3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4

(2) 事業継続性評価

代替事業（有）

ニーズ（小） → ニーズ（大）

継続

一次評価コメント

【一次評価コメント】  
「農地利用の最適化」また「環境にやさしい持続可能な農業」に向け、地域計画、農業従事者の確保・育成、気候変動や災害に対する適応能力など、農業委員・農地利用最適化推進委員の資質向上が求められているため、今後とも専門的な講師による勉強会が必要である。また、勉強会内容をウェブサイト等で発信することにより、委員以外の農業者への情報提供や関係機関との連携強化にも資する結果となっている。今後は、広域的な課題への対応や新規就農者支援、スマート農業の導入促進などを視野に入れ、より実践的・先進的な内容を取り入れた勉強会の充実を図る必要があるため、今後も「継続」して実施する。

5レス

カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
○	○	○

### 4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4

(2) 事業継続性評価

代替事業（有）

ニーズ（小） → ニーズ（大）

継続

二次評価コメント

令和6年度は、計画どおり勉強会を2回開催し、参加者数は計画値を大きく上回った。農業委員・農地利用最適化推進委員の出席率が100%を達成し、勉強会の内容に対する満足度も高い結果となった。  
勉強会の内容については、農業委員などからアンケートを取り、上位になった事項から事務局と幹事会で協議して決定しており、ニーズに合う勉強会の開催に努めている。また、オンライン配信を活用したことで対象者を拡大し、農業委員・農地利用最適化推進委員以外への情報提供も行った。  
今後においても、農業従事者の知識習得や資質の向上を図り、農業者への適切な情報提供、指導等の委員会活動を実施するため、継続して事業を実施する。

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画